

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043(222)7207 番
FAX 043(224)7187 番
2.000.8.28 No. 5186.

「四党合意」を拒否し

1047名闘争の勝利を!

動労千葉は、八月二二日労働スクエア東京で「四党合意」反対一〇四七名闘争の勝利をめざす集会を開催した。

集会は、川崎執行委員の司会で始まり、布施副委員長が動労千葉を代表して「一〇四七名問題について国労に申し入れにいったが受け取りを拒否された。一〇四七名闘争は節目を迎えている。大きく情勢を切り開きたい。8・26国労臨大、9・3闘争、11月労働者集会の総結集へと闘おう」とあいさつした。

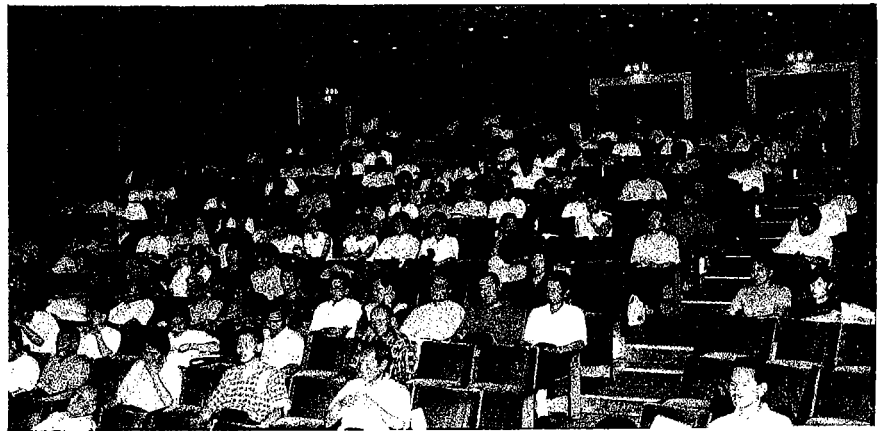
「四党合意」は

国家的不当労働行為だ

連帯のあいさつは、法学博士の宮島尚史氏、早稲田大学名誉教授の佐藤昭夫さん、作家の宮崎学さん、動労千葉顧問弁護士国労闘争団、動労千葉を支援する会からおこなわれた。

連帯のあいさつでは、各々の弁護士から「四党合意」と国労への強要は国家的不当労働行為にあたる、①政府・運輸省、②政党、③JR三者を非申立人に不当労働行為を申し立てることが訴えられました。この闘いは「四党合意」で国鉄労働運動をつぶそうとする自民党・JRを牽制するものだ。直接の雇い主でなくともその背後にいて操る自民党、運輸省も使用者にあたるという考えによるものだ。

また、宮崎学さんは7月1日は日本労働運動の終焉になると



ころだった。しかし、闘争団の闘いで危機からの再生を勝ち取った。四党合意の完全な阻止に向けて徹底的に闘おうと訴えた。国労闘争団の仲間も、「四党合意」は闘争団の切り捨て、国鉄闘争が消滅するの否かの所見習って闘わなければならない。8・26を国労の終戦記念日にしない、と決意を明らかにした。連帯のあいさつのうち、清水執行委員がカンパピールをおこなった。

国労臨大に総決起し

臨大を中止に

集会の基調を中野委員長は次のように提起しました。

8・26国労統開大会をめぐる状況は7・1の時と変わってきている。「四党合意」に対する批判や国労に対する申し入れが相次いでいる。7・1の演壇占拠の闘いは歴史的な壮挙であった。「四党合意」は国労一闘争団の変質、解体攻撃であり、尊大極まりない支配介入であり、不当労働行為であると弾劾した。「四党合意」に至る経過を分割・民営化から「202億スト損賠」の和解、国労本部の人道的立場からのJR各社への申し入れ、5・28反動判決から「改革法」承認。そして、今回の「JRに法的責任なし」の受け入れに至る過程から今回の問題が突然出てきたものでないことをこの経過から明らかにした。最後に国労臨大に総決起し、社会文化会館を万人の労働者で埋め尽くし臨大の中止をかちとろうと提起した。

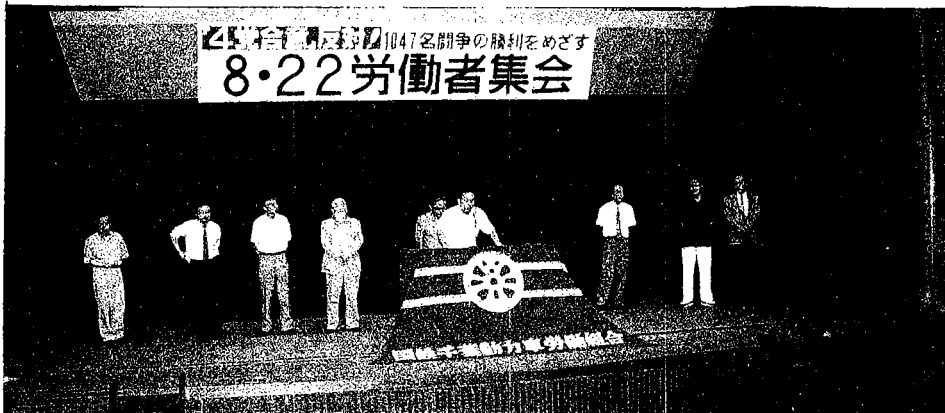
集会の最後に繁沢副委員長の閉会あいさつと団結カンパローで終了した。

国労統開大会

「四党合意」を決定できず

八月二六日の国労統開大会は7・1臨大を倍する闘争団、家族、組合員、そして支援の仲間たちの怒りの声に包まれる状況の中で「四党合意」の受け入れ

を決定することができなかった。しかし、統開大会では「四党合意」受け入れの賛否を問う全組合員の一票投票を実施すると「方針」が打ち出された。言うまでもなく一〇四七名の解雇撤回闘争と国労を解体しようとする敵の攻撃を一票投票にかけること事態が決定的な過ちだ。



われわれは、「四党合意」の大陰謀を粉碎し、国鉄闘争の勝利を勝ち取るために、国鉄闘争団や全国の支援の仲間たちとともに全力で闘いに立ち上がる決意である。